

役員所感

事務局長兼総務委員長 佐藤 利彦

近年、地域社会のあらゆる面で経済的な効率性を追求するあまり、人と人、人と地域、地域と地域などの関係性が年々薄れてきています。その結果として「利己主義」や「他人任せ」という風潮が蔓延してきているものと思っています。このような社会の動きに連動し上越JCにおいても取り巻く環境が大きく変化してきており、上越JCの存在意義が今、メンバーはもちろんのこと、地域社会全体に大きく問われてきているものだと考えます。

社会が複雑化し価値観が多様化している中で、これからのLOM活動における本質的な課題は何かを見極め、どのように信頼の絆を地域社会の中に生み出していくかを原点に立ち返って考えることが必要なのではないでしょうか。その点から、LOM活動においては、受け継がれてきた伝統を継承していくとともに、新たな価値観に基づく活動へと進化することが求められています。改めて言うまでもなく、会員一人ひとりが主人公なのです。そして、主人公である会員一人ひとりが、たとえ小さなことであっても、誰かのためにできることを自発的に取り組み、その成果を皆で分かち合うことにより、LOMで活動していること、このまちに生きていることの誇りを築いていくことができます。会員数が減少傾向にある今、先輩諸兄が受継いできた精神を次世代のメンバーへ今一度しっかりと伝えていかなければなりません。そして、上越JCという団体の魅力を自分自身が実感し、より多くの方々に活動を知ってもらいたいという思いを強く持ち続けること、そのことにより、今後の上越JCの更なる発展や活動の新たな創造にも結びつくものと確信しています。

今、社会全体に薄暗く覆われた閉塞感を打破していくためにも、「一人のまちづくり」から「二人のまちづくり」、「三人のまちづくり」へと活動の輪を広げていくことが今後上越JCの大きな原動力になり、そこから、新たな上越JCとしての活動が始まるのです。